

令和8年3月4日

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	墨田区立第三寺島幼稚園
所在地	墨田区東向島6-8-1

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然（身近な自然との関わりを通して「すてき」を見付けよう）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など）

本園の幼児は戸外で遊ぶことを好み、園庭の草花や虫、栽培している野菜などに関心もち関わる姿が見られる。また、近隣の公園などへ出掛ける機会が年に数回あり、園内ではできない体験や出会いを楽しんでいる。その中で、それぞれの幼児が面白さや不思議さなどを感じ、様々な気付きも生まれている。今年度は、身近な自然の中にある「すてき」に目を向け、小さな変化や発見を喜び合うことを大切にしたい。心を動かされた体験を出発点に、更に関わりを深めたり試したりする中で、自分なりの見方や感じ方を広げていく探究の姿が育まれるよう、環境構成や援助を工夫して取り組んだ。

2. 活動スケジュール

○年間を通して

- ・園庭での栽培活動（草花、野菜）・園庭での遊び（虫探し、葉っぱ集め、草花を使った遊び）
- ・身近な草花、自然物を使った遊び、製作

○季節ごとの取り組み

★色水遊び（6月）

★どんぐり拾い遠足（10月） **事例**

- ・どんぐり拾いをしながら発見を楽しむ。気付きを言葉にしたり伝え合ったりする
- ・どんぐりを園に持ち帰り、「すてき」を見付ける。どんぐりをよく見て「すてき」を表現する
- ・どんぐりを使って遊んだり、作品に取り入れたり、「すてき」を生かす

★秋の園庭の葉っぱの「すてき」を見付けよう（11月）

★季節ごとに変わる「すてき」を見付けよう（向島百花園）（12月、1月）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定（事例に関するもの）

○素材や道具

- ・自然物を分類できるかご ・虫めがね ・サインペン、絵の具 ・木片や小枝など ・ボンド
- ・空き箱、廃材など ・巧技台、中型積木、板状の積木、段ボールなど ・植木鉢、透明な容器

○環境

- ・園庭…ベンチ、テーブルを中心に、4歳児・5歳児が集えるようにした
- ・園内…保育室、ホール、廊下にどんぐりを使った遊びができる場を確保し、素材や道具を置いた
どんぐり遠足やその後の取り組みの様子が分かるよう、写真を掲示した
- ・観察画（5歳児）…絵の具の混色をたくさん試しながらじっくりと描くことができる場を設定した

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

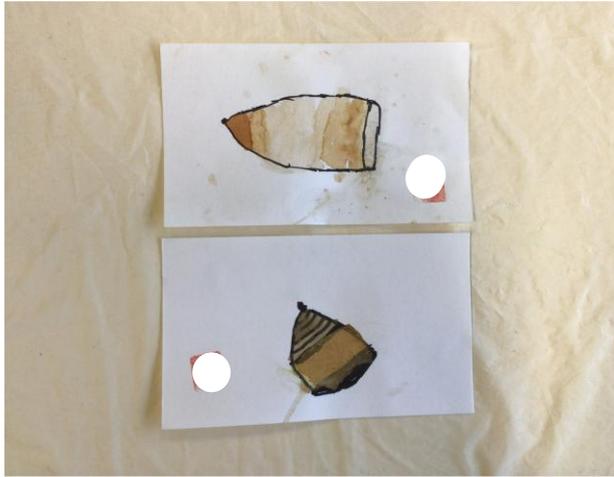
- ・公園でどんぐり拾いをする。芽を出しているどんぐりも探し、園に持ち帰る。
- ・どんぐりの色や形をよく観察し、自分のお気に入りのどんぐりを決め、絵を描く。本物のどんぐりの色に近づこう、自分で混色をする。
- ・どんぐりを使った遊び（ままごと、ゲーム、木材と組み合わせボンドで貼った製作など）をする。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

事例 どんぐりとの出会いから

- ・現地では、袋をいっぱいどんぐりを集めたい幼児、気に入った色や形のものを集めたい幼児など、それぞれの興味でどんぐり拾いを楽しんだ。偶然、芽が出ているどんぐりを見付け、教師と一緒にそっと引っ張ってみる。長い根っこも出ているのを見て「すごい！」と喜ぶ。同じものを見付けたい幼児同士、「ここにあるよ」「こういうのがいいんだよ」と声を掛け合いながら探す。見付けたものを大切に持ち帰り、「これ、植えたらどうなるかな」と話し、実際にやってみる幼児もいた。
- ・翌日、園に持ち帰ったどんぐりをよく見て自分のお気に入りのどんぐりを探そうと教師が投げ掛ける。幼児は虫眼鏡を使って観察し、一つ一つのどんぐりの表面の模様や、色の違いがあることに気付く。その後、お気に入りのどんぐりの「すてき」を描いて表現する。
- ・サインペンで線を描いたあと、絵の具の混色をして自分のどんぐりの色をつくり、色をつけていく。「ここはちょっと緑っぽいかな」などつぶやきながら、色がグラデーションになっているところなど、丁寧に表現していた。
- ・また、各学級でどんぐりを遊びに取り入れ、作ったり、様々なことを試したりする。4歳児は段ボール片や牛乳パックにどんぐりをボンドで貼り付け、自分なりのケーキを作ることを繰り返し楽しむ。集える場に持っていき、来てくれた人とのやりとりを楽しむ姿も見られた。

<活動の様子>



5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

- ・幼児は、どんぐりの色の違いや形、芽の様子など、それぞれの「すてき」を見付けていた。その姿から、保育者自身ももっと丁寧に自然を見つめ、「すてき」を見付ける目を養う必要があると感じた。
- ・芽と根っこが出たどんぐりと偶然の出会いが、幼児の心を大きく動かす出来事であった。保育者があらかじめ予測していた活動の流れを超えた出会いが探究の出発点になることを実感した。
- ・今回、どんぐりが思ったように育たなかったが、偶然の出来事、予想していなかったこととの出会いをどう生かすのが大切だと感じた。幼児と共に、柔軟に考えていくことができるようにしたい。
- ・身近な園庭や地域の自然について、まず保育者自身が目を向け、知ろうとする姿勢が必要であると感じた。次年度は園庭の環境も見直し、生かした取り組みにつなげたい。

以上